



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第133号 2025年1月16日 発行

能登半島地震被災者に対する 高齢者と中高生の社会交流を活用した健康支援活動 「中高生と高齢者の交流会 in 能登町」を開催

事業部 理事 菊池 ゆひ
(金沢大学)

令和6年能登半島地震から10ヶ月となる10月5日(土)、鳳至郡能登町松波のまつなみ第1団地(応急仮設住宅；76戸)において、今年度2回目となる「中高生と高齢者の交流会in能登町」を開催した。

本事業は、令和3年から当会が「中高生による高齢者の生活向上プロジェクトを実現するためのキャリア教育支援」としてスタートした活動を発展させ、能登半島地震で被災した高齢者に対し、中高大学生との交流の場をつくるとともに、健康支援活動を避難所などで実施するもので、第13回杉浦地域医療振興助成(公益財団法人杉浦記念財団)を受けている。主な活動内容は、地域の高齢者と中高生が参加する交流会の中で、①高齢者はスマートフォン等のデジタルコンテンツの使い方を中高生から教わる、②中高生は高齢者の生活、抱える課題などを知り、解決策を考える、③健康予防について、当会が監修している「いつでもどこでも脳活プログラム(金沢市)」と一緒に取り組む、である。

参加者は松波地区や仮設住宅に居住する高齢者10名と県立田鶴浜高等学校の生徒10名だった。前半は高齢者がスマートフォンやアプリの使い方を高校生から教わり、後半は脳活プログラムを一緒に体験しながら、交流を図った。高齢者からは「楽しそうな顔を見て元気が出た」、「久しぶりに若い子と話し、緊張しましたが良かった」といった感想があり、高校生からは「震災された方の今までの大変さがわかった。地域の人でとても仲良くされていて、関わりをもつことはとても大切なことだとわかった」、「違う年代とのかかわり方や考えの違いなどを知ることができた」といった感想が聞かれた。交流する機会の少ない世代間の交流は、笑顔があふれ、お互いに教え・教わることができる有意義な時間となっていた。

開催にあたり、開催場所の調整、地域への呼びかけには能登町健康福祉課と県士会員森山恵子氏に多大なご協力をいただいた。地元とのつながりがあり、特徴と課題を把握している県士会員の協力があったからこそ開催となった。

今後、能登の他市町でも交流会を開催していきたいと考えている。また、持続可能な活動とするため、協力いただける県士会員も募集中である。

今後の開催予定

金沢福祉用具情報プラザ	令和7年1月19日
ふじなみ第1団地集会所(能登町藤波)	令和7年2月 2日
金沢市地域包括支援センターとびうめ	令和7年2月15日



2024年度大規模災害発生を想定した シミュレーション訓練の結果について

災害対策委員会 理事 東 ひとみ
(石川県リハビリテーションセンター)

毎年9月25日に実施される日本作業療法士協会の災害訓練に参加した。今年度は、9月21日に奥能登豪雨災害があったことから、シミュレーション訓練ではなく、豪雨災害後における会員868名(自宅会員含む)の安否確認として、LINEオープンチャット(災害・OT石川)、士会メーリングリストからGoogleフォームを用いて実施した。結果、第1報(72時間後)、431名(49.7%)の無事の確認と、輪島市で仮設住宅含む住居が被災した会員数名の報告があった。今後の災害に備え、全会員の安否確認を目標に、未回答施設、およびLINEオープンチャット未登録施設に対し、FAXでの回答依頼、さらに返信がない施設には直接

電話で確認した。結果、第2報(1か月後)、803名(92.5%)の無事を確認した。

また、11月26日に能登地方で発生した震度5弱の地震に対し、27日、能登地域の会員に対し安否確認を実施した。結果、能登支部会員124名中95名(76.6%)の無事を確認した。

現在、LINEオープンチャットに、88施設304名が登録している状況である(自宅会員含む)。当士会の安否確認は、災害時の医療体制支援を把握し、必要に応じ石川JRAT構成団体として被災者の自立生活を再建、復興を目指す第1歩となるため、今一度所属施設の代表者、他1名以上の登録をお願いしたい。

災害対策委員会 活動報告 (令和6年9月以降)

◎令和6年能登半島地震・奥能登豪雨災害関連

1) 日本作業療法士協会

9月25日～10月末：奥能登豪雨災害に対する安否確認を実施(結果は上記参照)

10月20日：奥能登豪雨で被災した会員宅への支援を実施(会長他4名)

10月22日：協会災害対策本部役員との意見交換会

10月26日：2024士会一協会災害情報交換会、能登半島地震の士会対応報告(2名出席)

11月22日：協会災害対策本部と石川県災害対策本部との情報交換会開催に向けた打合せ

11月27日：11月26日、能登地方に発生した地震(最大震度5弱)に対し、能登地区を中心とした安否確認を実施(結果は上記参照)

12月 3日：協会災害対策本部と石川県災害対策本部との情報交換会

12月14日：2024年災害支援研修会、能登半島地震での活動報告(3名受講)

2) 理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会、各県士会長と県リハビリテーションセンターとの情報交換会

第1回：9月5日、第2回：10月11日、第3回：11月21日、第4回：12月19日

3) 石川JRAT

9月23日：奥能登豪雨災害に対する緊急会議(3名出席)

4) 石川県復興リハビリテーション支援事業

アクティビティセンターに会員2名を継続派遣

◎人材育成(第18JIMTEF災害医療研修 受講状況)

ベーシックコース オンライン開催(9月17日～10月17日)：6名修了

アドバンスコース JICA関西国際センターにて開催(11月3日～11月4日)：3名修了

令和6年度いしかわ介護フェスタに参加して

老年医療部 部長 谷口 美樹
(デイサービスすまいる珠洲)

いしかわ介護フェスタが令和6年11月9日(土)に石川県産業展示館で開催され、老年医療部と金沢西支部のスタッフ11名が参加した。

作業活動体験としてポンポン手芸とミサンガ作りを行い、就学前から小学生の子どもたちが親子で、また大学生から高齢者まで、たくさんの方が体験をされた。好きな色を選んで自分で作り、上手くできた作品を身につけて持ち帰り、とても喜ばれていた。

運動活動体験として、スタッキングタワーと風船バレー、ポッチャを行い、タイムや点数を兄弟姉妹や親子で競争して体験してもらい、盛り上がった。

どの体験も、子どもたちが楽しんでいる様子を見て、親御さんたちも喜ばれている姿が印象的で、笑顔を見ることができ、とても良かった。

また、今年度は認知症予防のヒントやCOTOTのパ

ンフレットを手にとってくださった方が昨年度よりも増えて、より多くの方々に作業療法を知ってもらえるよい機会となった。

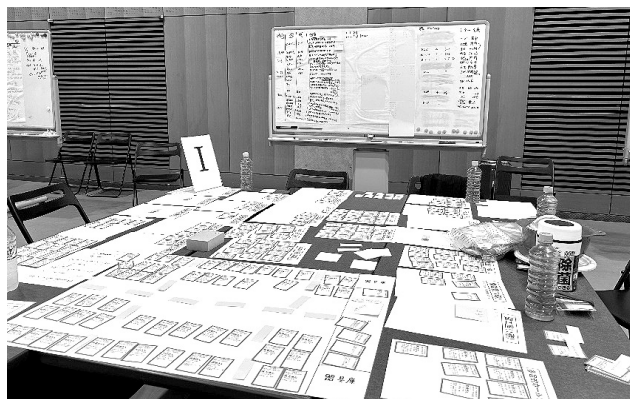


JIMTEF災害医療研修アドバンスコース参加報告

災害対策委員会 委員長 市川 翔悟
(公立河北中央病院)

11月3日～4日、神戸市で開催された第18回JIMTEF災害医療研修アドバンスコースに参加した。研修には様々な職種が参加しており、実際の災害でも起こり得る多職種とのコミュニケーション練習の機会となった。また今回は、令和6年能登半島地震の経験後の参加であったため、自身の行動を振り返る機会となり、非常に勉強となる研修であった。内容は避難所の実際について多くの講義・演習が組まれていたが、特に印象に残ったのは班ごとに行った避

難所運営ゲーム(HUG)であった。HUG後に、別の班が作った避難所について、アセスメントシートを用いて評価する練習も行った。評価時に、避難者役が怒りだし対応に困る場面もあったが、講師やファシリテーターからは、避難所での立ち振る舞いや「医療職だからやらない」という認識でなく一緒に解決していくことの重要性を教えていただいた。今回の経験を活かして、引き続き研鑽を積み、起こりうる災害に備えていきたい。

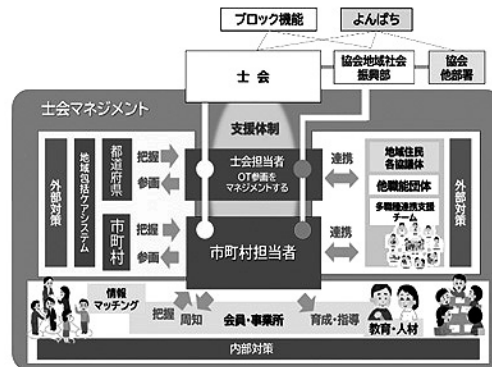


地域共生社会へ向けて ～市町村担当者配置事業について～

地域保健福祉部 保健 理事 加藤 孝之
(町立富来病院)

(一社)日本作業療法士協会は、地域共生社会5か年戦略のスローガン「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」を目指し、一昨年度より「地域社会振興部 地域事業支援課」を新設した。今年度は第四次5か年戦略の2年目であり、地域社会振興部の重点活動項目として、「地域で暮らすすべての人々を対象として、人々の活動と参加を支援する」および「地域における人のつながりや人と社会のつながりを創り出す」ことを挙げており、自立支援や自助・互助の地域づくりを更に推進するため、全国約1700の市町村に担当者を配置し、自治体と連携

して地域課題を吸い上げ、県士会の関係各所に振り分け、作業療法で地域事業に参画していきたい考えである。全国配置率は9月現在で66.7%だが、石川県は32%とまだまだ低い。また支援者間での情報共有や人材育成の取り組みも十分とは言えない。そこで今年度は配置率100%で人材育成にも精力的に取り組んでいる新潟県から県士会副会長の村山拓也氏をお招きして、2月22日(土)に研修会(ハイブリッド)を開催する。地域事業に参画している方はもちろん、興味のある方はぜひとも参加していただきたい。



「発達障害支援部・精神医療部合同研修会」を開催して

発達障害支援部 部長 諫山 哲規
(金沢こども医療福祉センター)

令和6年11月17日(日)発達障害支援部・精神医療部合同研修会に精神科医の内藤暢茂氏(ときわ病院)と作業療法士の安本大樹氏(金沢こども医療福祉センター)を講師に招き、ハイブリッド形式にて開催した。受講者は46名であった。

前半の講義では精神科医の立場から、「児童精神科外来の現状と展望 - 診断から治療、そして多職種へ期待すること - 」をテーマに講義して頂いた。

作業療法士をはじめとした関連多職種が、治療において重要な役割の一端を担っている事、臨床における作業療法士や他職種からの情報が、治療を進める上で有益であった事例などお話し頂いた。

後半の講義では作業療法の立場から、「発達障害支援の現状と展望 - シームレスな支援に向けた課題を共有しよう - 」をテーマに講義して頂き、発達障害領域の評価、治療、事例紹介を通して、小児から成

人に至るライフステージにおける作業療法士の役割や今後の課題についてもご提案頂いた。

受講者による情報交換の時間では、受講者間で講義内容を振り返り、各施設間での課題も共有することができた。また、講師に対する質疑も盛んに行われた。

両講義を通して、精神科領域と発達障害領域の共通する評価項目をもとに、対象児・者のライフステージによって変化する課題に対して、誰がいつ、どのような支援を行い、その支援をどのように継ぎ目なく次の領域の支援者に繋げていく事の難しさを感じ、色々な視点で考える機会を得た。

今回の精神医療部と発達障害支援部という部局を越えた研修の共同開催が、対象児・者のライフステージをまたいだ持続可能な支援の始まりとなるよう、今後も各領域間でスムーズに支援のバトンを受け渡しできるような具体的な連携の構築を進めていきたい。

「石川県の交通状況と代替手段を知り、 よりよい地域移動支援を目指そう！」を開催して

運転と作業療法に関する委員会 委員 田中 聡士
(金沢脳神経外科病院)

12月15日に研修会「石川県の交通状況と代替手段を知り、よりよい地域移動支援を目指そう！」が石川県リハビリテーションセンターにて開催され、31名が参加した。本研修会では講師として石川県警本部の榎本高裕氏、スズキ自販北陸の松葉浩氏とスズキセニアカー安全運転指導員の早坂拓実氏、七尾自動車学校の高間達也氏をお招きし、県警や自動車販売、自動車学校といった様々なお立場から、地域における移動支援の提案や制度に関してお話しいただいた。講義内容は普段の臨床現場では中々知りえない情報も多く、大変貴重な機会となった。後半は、セニアカーをスズキ自販北陸の松葉氏と早坂氏にご準備いただいた。そこでは操作方法や注意点等をご教授いただき、実際にセニアカーに試乗させていただいた。参

加者の中にはセニアカーの存在は知っていたが実際に乗車したことがないという方も多かったが、実際に操作を体験する事でセニアカーを身近な移動手段として感じる事ができたのではないだろうか。今回の様な地域に関わる様々な方と連携する機会をこれからも大切にし、対象者の方々の移動手段がより充実するよう努めていきたい。



「シリコンテープを用いた自助具製作講座」を開催して

福祉機器部 副部長 和知 晋太郎
(片山津温泉丘の上病院)

今年度は(株)ニッシリの岩田 和之氏を講師に、標記研修会を開催した。シリコンテープの特徴や汎用性、耐久性などについての講義を聞きつつ、鉛筆の持ち手を作ったり、スプーンの柄を太くしたりと実際にシリコンテープを使って自助具を製作する体験ができた。参加者からは「個別性のある自助具が作りやすいと感じた」「自助具だけでなく手すりに巻くなど様々な用途に使える」といった意見がきかれ、参集型かつ実技を交えた研修として有意義な時間を過ごしていただけたと感じている。さて、現在福祉機器部では第4回生活行為工夫情報コンテストを開催中である。昨年度より福祉用具相談支援システムへの事例投稿が『日本作業療法士協会生涯教育制度の士

会裁量ポイント(2ポイント)の対象』になっている。過去、学会や事例検討会等で発表した事例も投稿可能であり、経験年数や領域を問わず多くの工夫情報の投稿をお待ちしている。



第10回東海北陸リーダー養成研修会に参加して

山口 雅代
(七尾松原病院)

11月23日に、第10回東海北陸リーダー養成研修会に参加させていただいた。研修は県士会の課題・問題点を抽出し、魅力ある県士会プロジェクトを立案するといった内容であった。各県士会が共通して抱える問題として、若年層の新規入会者の減少、研修参加率の低下、県士会運営の財政的・業務的負担増、といった現状がある事を知った。魅力ある県士会を作っていくためのプロジェクトの一つとして、“世代をこえて一体感を生み出す県士会作り”をテーマにグ

ループワークを実施した。新人、子育て世代のOTにも県士会活動への関心や理解を示してもらえよう、SNSやICTを活用した広報・研修開催、養成校とのコラボイベント、ロールモデルの紹介等、多数の発案があり、盛り上がる討議となった。県士会運営に携わっている諸先輩方の熱い想いに触れ、とても刺激ある充実した機会となった。当県士会において実現できるよう、今後も携わっていきたい。

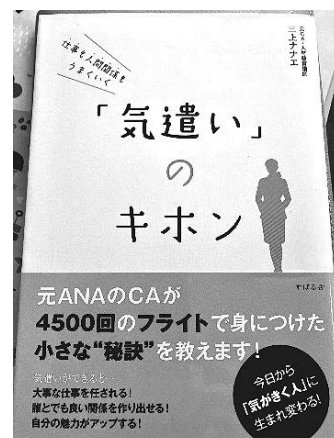
新人作業療法士へのおすすめ書籍紹介

仕事も人間関係もうまくいく 「気遣い」のキホン 著者：三上ナナエ

副会長 合歓垣 紗耶香
(芳珠記念病院)

作業療法に関するおすすめ書籍はたくさんあるが、今回は本書をおすすめしたい。作業療法は、世代やバックグラウンドが異なるたくさんの人と信頼関係を構築し、対象者や家族を含めた強固なチームを創り、目標に向かって一緒にすすんでいくという、高い人間力が必要である。新人の皆さんは社会人、作業療法士として働き始めて仕事に慣れてきたころだと思うが、対象者や同僚、先輩、他職種とのコミュニケーションに少なからず悩むことがあるのではないかな。そんな人に本書を読んでみていただきたい。当たり前のことだが実践するのが難しいことが大変読みやすく書かれており、若い皆さんの臨床でのヒントになることがたくさんあると思う。人間の評価

は総合力で、各能力は足し算ではなく掛け算である。高い技術力、知識があっても人間力によってゼロ評価になる。ぜひ、作業療法士として成長するためにもこのような書籍も手に取ってみたい。読んでいただきたい。



能登支部

恵寿総合病院 小川 正人

能登支部は2月8日(土)に、事例検討会と研修会を予定している。研修会では、発災からこれまでの災害対策委員の活動報告や、被災者の立場からも奥能登復興リハに従事しているOTに現状、課題などを踏まえて講義して頂き、参加者同士も語り合える時間(発災から今までの自分たちの苦労・言えずにいたことなど語る場)を検討中である。私を含め、能登で働くOT会員には、今一度「復興支援リハ」の取り組みとその思いを共有し、復興支援にむけ一步を踏み出すきっかけになってもらえればと考えている。事例検討会とあわせ、多くの参加をお待ちしている。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

12月5日(水)のMTDLP事例検討会では2事例の報告があり加賀支部以外からも積極的な参加があった。グループ討議では①意に沿わないと直ぐに拒否を示す事例に対し、どうアプローチすればよかったか?②できるADLを生活にどう汎化させるか?③自宅に閉じこもりがちな生活の末、被殻出血を発症した事例における活動や交流の在り方とは?について活発な意見交換と発表がなされた。次回は令和7年2月9日(日) 9:00～12:00に事例検討会と飲食を伴った交流会を予定している。コロナ後数少なくなった参集の機会であり楽しみながら参加できるよう企画している。

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

10月6日(日)に福祉のつどい金沢2024(主催:金沢市社会福祉協議会)が開催され、作業療法の普及・啓発を目的に参加した。ステージイベントや模擬店、各福祉・医療系団体のブースが多く出店しており、幼児から高齢者まで多くの来場者があった。パネル展示や手芸などのアクティビティ体験を中心に行ったが、親子連れにはお子さんの進路の選択肢として「COTOT」等の作業療法士紹介のパンフレットを配布しPRに努めた。当事者団体も参加しており、以前関わった当事者と再会することもある。多様な団体の活動を知ることができるので、「参加」の場を知るよい機会かもしれない。



金沢東支部

公立河北中央病院 市川 翔悟

10月25日に第2回事例検討会が開催された。22名にご参加いただき、5事例に対して活発な意見交換がなされた。若い世代の会員からの発表が多く、非常によい刺激となった。また、ミニレクチャーも継続中である。今回は私が「重層的支援体制整備事業」について講義を行った。引き続き実施を予定しているため、まだ参加したことのない若い世代の方や、久しく参加ができていない方も次回2月の事例検討会は是非ご参加いただき、日頃の臨床の役に立つように知識を深める機会としていただけるように考えている。

◆◆◆令和6年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第3回理事会 議事録◆◆◆

1. 日時：令和6年11月12日(火) 19時00分～20時15分 西泉事務所およびZoomによるWEB会議
2. 出席理事：東川、麦井、合歓垣、桂、菊池、東、堀江(理事7名会場)、米田、種本、永井、中森、坂下、鈴木、高多、越田、加藤、村井(理事10名Zoom)

出席支部長：市川、西村、小川(支部長3名Zoom)、後出氏、進藤氏(監事2名Zoom)

欠席理事：酒野、欠席支部長：長原 書記：山本(Zoom) 濱岸(会場)

3. 議事【議決事項】

＜第1号議案＞令和6年度中間決算・補正予算について、米田副会長兼財務理事から説明。当初予算は災害支援として入会金・正会員費・賛助会員費の免除が含まれていない点が大きな変更点。入会金は21万円、正会員費は136万円、賛助会員費は25万円減収。研修会・福利厚生収入共に減収。補助金は石川県高度専門医療人材支援として68万円収入。収益全体として当初予算から300万円近く減収。支出は災害が特別会計のため、事業費が300万円減少。東川会長から給料手当の按分と、地代家賃の予算立ての指摘あり。米田副会長から説明あり、今後確認する。進藤監事から給料手当は事業費と管理費で案分し、事業費を多くする必要があるとご教示頂いた。後出監事から当初予算の割合が望ましいが、事情の説明が明確であればよいとご教示頂いた。 **承認**

＜第2号議案＞特別会計について 1) 第23回東海北陸学会収支報告について米田副会長兼財務理事から説明。当初予算は850名の参加見込みだったが、参加人数が542名、自治体補助金が非該当のため、60万円減収。支出は1,200万円程の見込みで、一般会計から100万円程の補填必要。 **承認** 2) 災害収支報告について米田副会長兼財務理事から説明。今年度、新たに50万円の義援金あり、特別会計として186万円強の見込み。支出は予備費として60万円弱繰越予定、今年度は12万円程執行。内訳は学会の災害関連の展示や災害関連のWEB改修、被災地からの講師旅費等である。 **承認**

＜第3号議案＞規程の一部改訂について 1) 会議費・日当費支給規程の一部改訂について米田副会長兼財務理事から説明。交通費は講師謝金規程と同等にする。日当費は会員が所属施設以外の業務に対する対価として見直し、会員の県土会活動の参加促進を図る。会議費は金額の見直しを検討したが、財政状況を確認した上で再検討する。東川会長より施行日の質問。後出監事より、施行日は過去に遡るのは一般的ではないとご教示頂いた。東川会長より、12月1日施行とし、それまでは会長判断とすると提案。 **承認** 2) 講師謝礼並びに交通費等支給規程の一部改訂について米田副会長兼財務理事から説明。宿泊費上限額の見直しと、講師謝金は金額の見直しと改訂するものである。進藤監事より、著名な先生をお呼びした場合、原稿料も含めそれなりの金額を支払う必要があると、謝金に上乗せしてお支払いする形で良いとご意見頂いた。米田副会長より都度理事会で諮ることも可能。進藤監事より都度の審議は運用がしにくい。会長の先決議案として、理事会報告で良いとご意見頂いた。 **承認** 3) 入会金・会費規程の一部改訂について米田副会長兼財務理事から説明。入会金は当会会員が今後、日本作業療法士協会の会員であることが必須で、会員情報も協会と共有することが見込まれる。当会の入会金の対価となる費用も不要のため、入会金を廃止する。退会者が再入会しやすくなる等のメリットも期待できる。 **承認**

◆◆◆令和6年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第4回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和6年11月12日(金) 20時15分～21時 西泉事務所およびZoom使用によるWeb会議
2. 出席理事：東川、麦井、合歓垣、桂、菊池、東、堀江(理事7名会場)、米田、種本、永井、中森、坂下、鈴木、高多、越田、加藤、村井、酒野(理事11名Zoom)、出席支部長、欠席支部長、書記は理事会と同じ

3. 議事【審議事項】

＜学術部＞次回学会長は千田氏(県中)内諾あり。1日開催でも可能か？理由は2日では参加費が上がる、参加者が2日に分散する等。 **承認**

＜教育部＞生涯教育推進担当者会議の出席にオブザーバーとして教育部3役の内1名が参加可能か？25年1月11～12日東京都内で対面形式 参加は生涯教育推進担当者1名、希望士会はオブザーバー1名。経費は推進担当者は協会負担、オブザーバーは士会負担。 **承認**

事例検討会に県外OTから「事例検討」として会員ポータルサイトへの登録希望あり。登録してよいか？当会の方針に従い、事例報告をすることで「事例検討」に登録する。 **承認**

2025年度より生涯学習制度が開始されることに併せ、協会から2年間は現職者共通研修の開催に協力依頼あり。受講者が激減し、収支も望めない可能性が非常に高い。開催について審議願いたい。未開催の場合は、e-福祉チャンネルの動画配信による受講可能。 **承認**

【報告事項】各部局、支部から報告。

インフォメーション 研修会案内・県士会活動

1月31日(金) 発達障害支援部
第2回いっしょに小児発達しよう会

2月8日(土) 能登支部
研修会

1月24日(金) 精神医療部
勉強会

2月9日(日) 加賀支部
第3回事例検討会

1月25日(土) 身障医療部
作業療法実践セミナー

2月22日(土) 地域保健福祉部保健
研修会

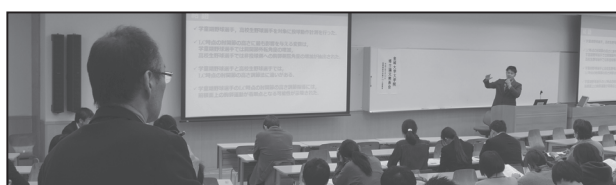
1月29日(水) 生活行為向上推進委員会
MTDLP事例検討会

2月23日(日) 生活行為向上推進委員会
研修会

2月7日(金) 管理運営教育部
キャリアアップ交流会

3月5日(水) 金沢西支部
第3回事例検討会

2月8日(土) 能登支部
第3回事例検討会



「超高齢社会」における
現場での悩みを解決したい方や、
学びの追及をしたい方へ。

金城大学 大学院で学んでみませんか？

- ・総合リハビリテーション学研究科
- ・総合リハビリテーション学専攻（修士課程）

遠隔オンライン
学習対応

安心設定の
学納金

就業しながら学べる
昼夜開講制



2023 年度

「作業療法士」
国家試験合格率 **96.4%** (2023 年度卒業生実績)
(全国平均 84.4%)



金城大学

詳しくは、
ホームページを
ご覧ください。



全国に続々展開中！
パーキンソン病専門ホーム

PDハウス

1 専門医監修の
リハビリプログラム



2 脳神経内科医師の
訪問診療



3 お着取りまで対応
24時間訪問看護体制



全国で
続々展開中！

HPにすぐ随時掲載

■ 石川県
PD ハウス白山 2018.06 OPEN
PD ハウス小坂 2018.12 OPEN
PD ハウス勝江 2023.04 OPEN
PD ハウス戸部 2023.04 OPEN

■ 富山県
PD ハウス秋吉 2022.10 OPEN

■ 新潟県 **MSM**
PD ハウス新潟紫竹林
2024.10 OPEN 予定

And More...



株式会社
サンウェルズ

入居・お問い合わせ窓口 | 受付時間 9:00~17:00
0120-540-367



賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人 センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会 青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団千木福久会
社会福祉法人寿福祉会

医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団 竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団持木会 柳田温泉病院
医療法人社団 光仁会
医療法人社団橘会整形外科米澤病院
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社 北陸支店
セントラルメディカル株式会社
株式会社 メディベック
株式会社 サンウェルズ

D会員

有限会社 さわか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社北陸営業所

Web会員手続きQRコード



QRコードの説明

Web会員手続きがお済みでない会員は、QRコードからWeb会員登録フォームにアクセスして登録してください。登録いただいたメールアドレスに研修会案内や県士会からの連絡などをML配信します。



県士会Web QRコード ▶



会員数

会員数 860名(令和6年12月現在) 認定作業療法士 43名(12月現在) 専門作業療法士 5名(12月現在)

編集後記

新しい年、2025年がスタートしました。やるべきことはたくさんありますが、大切にしたいのは「コトに向かう」姿勢です。誰かや何かにとらわれず、目の前のことに向き合い、丁寧に進めていく。そんな取り組み方を大切にしたいと思います。また、今年は社会作業療法、特に「学校作業療法」の広がり注目しています。従来の枠を超えて、新たな視点から支援の可能性を広げることが求められる中、自分の役割を考えながら一歩ずつ前に進んでいけたらと思います。皆さまにとっても、穏やかで実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：酒野直樹、永井亜希子、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、網谷郁美、北野早紀、竹中朋也、仲佐東、上野玲子、川上直子、宮田真由美、竹村健太郎、増田司、南澁太

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社